



牧之原市義務教育学校施設整備 基本構想・基本計画【概要版】

令和6年1月
策定

市では、市立小学校8校、中学校2校を再編して、新たに1年生から9年生までを一貫して育てることができる「義務教育学校」を2校つくります。「牧之原市義務教育学校施設整備基本構想・基本計画」は、新しくつくる学校施設の整備に係る基本的な考え方を示すものです。

基本構想

学年の区切り

- 新しい学校の学年の区切りは、**4-3-2制**を基本とします。
- 教育活動や実情に応じて2-2-3-2制、5-4制などの枠組みで行うことができるようにします。

通学方法

通学手段と対象距離

- ・**スクールバスは無償**を基本とします。

学年	徒歩	自転車	バス
1～2年生	2.5 km未満	2.5 km以上	希望制
3～6年生			2.5 km以上
7～9年生			6 km以上

※榛原地域：坂部区の1～6年生はバス通学の対象。
 ※相良地域：萩間地区の1～6年生・地頭方地区の1～9年生はバス通学の対象。
 ※距離は実測距離。

通学路の考え方

- ・通学路は防犯面も考慮した上で、既に整備されている又は整備計画がある道路を優先します。

詳細は開校準備段階に地形や地域の実情に応じて定めます。

新しい学校づくり検討会で意見を出し合い、コンセプトを決めました！



学校施設のコンセプト

学校施設のコンセプトは、学校再編計画の目指す学校像「みんなの学校」を両地域の共通コンセプトとし、そこに相良地域・榛原地域が特に大切にしたいことを表現しました。

相良地域のコンセプト

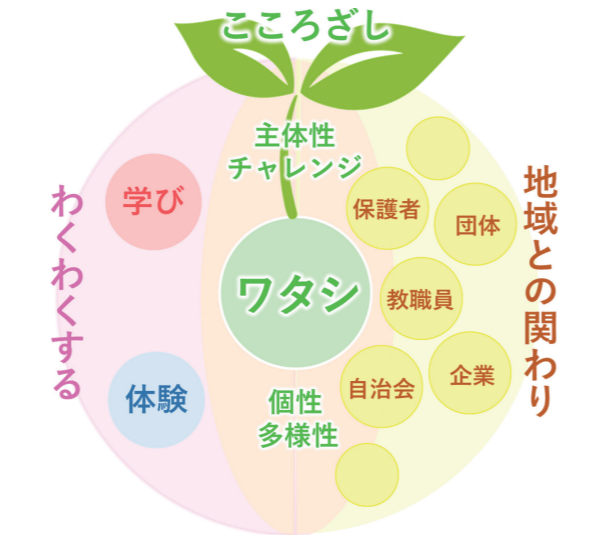
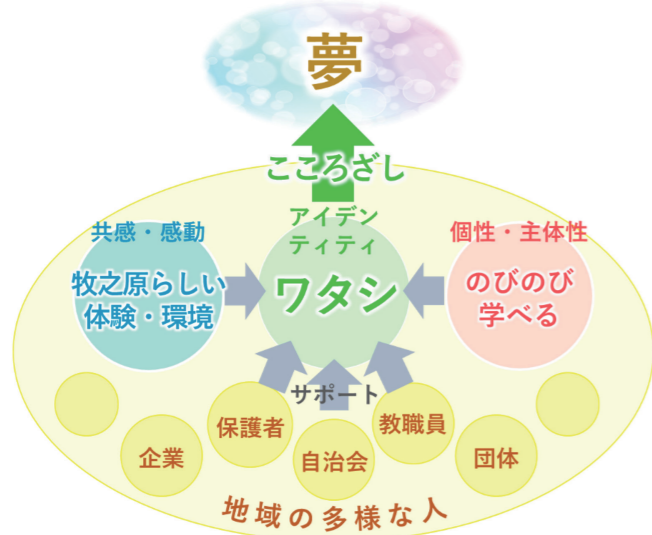
『夢につながる みんなの学校』

ワタシをつくるスタートラインとして、教職員、保護者、地域がみんな子どもを育てる主体性や個性を育てることにより、子どもの夢の実現につなげることができるような学校とする。

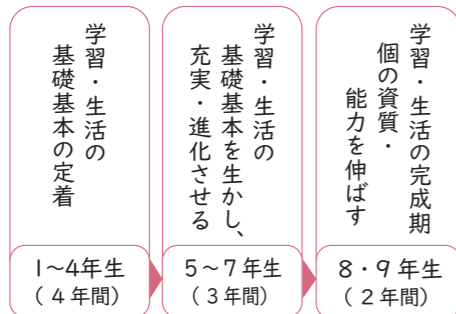
榛原地域のコンセプト

『地域と共に わくわく学び・体験できる みんなの学校』

子どもがやりたいことにチャレンジできる環境を整え、学びや体験、人とのつながりにより子どものこころを育てる。個性や多様性が尊重される中で、子どもが地域の人たちと共に、楽しくわくわくするような多様な学びや体験ができる学校とする。



条件整理



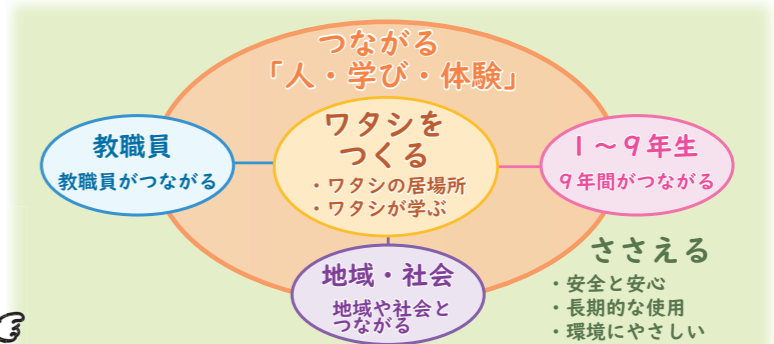
子どもの発達段階や年齢の特性に応じた教育活動

施設整備の方針

学校施設の整備方針

整備方針は、コンセプトと施設の計画を結ぶもので、コンセプトの検討過程で出された、両地域に共通する大事にしたい思いや機能などのキーワードをつなげたものです。

整備方針のイメージ図です



施設整備の方針

1 ワタシをつくる

「ワタシ」とは、子ども一人一人のことです。子どもの個性や主体性を尊重できる施設とします。

2 つながる「人・学び・体験」

「ワタシ」が多様な「人・もの・こと」に触れることができる施設とします。

3 ささえる

子どもの居場所となり、つながることができるよう、安全で機能性と汎用性が高い施設とします。

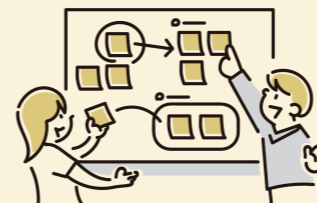
基本計画

ワタシの居場所

- 学校に行きたいと思える魅力ある施設
- 明るく開放的な空間
- 木材の積極的な活用
- 誰もが健やかに生活できる環境

ワタシが学ぶ

- 子どもが快適に学べる空間
- いつでもどこでも学べる
- 多様な子どもへの対応



9年間がつながる

- 多様な学びができる柔軟な学習空間
- 9年間の教育活動が充実する環境
- 子ども同士の交流がしやすい環境

教職員がつながる

- コミュニケーションが取りやすく、効果的・効率的な執務環境
- 働きやすい環境の整備

地域や社会とつながる

- 地域と共に子どもを育てることができる環境
- 地域と共にある学校としてみんなが利用できる環境（複合化・多機能化）
- 国際社会に触れる機会やグローバルなコミュニケーションができる環境
- 地域性を活かした施設

安全と安心

- 誰もが安心して過ごせる安全な施設
- 地域の災害拠点となる施設

長期的な使用

- 維持管理しやすく長期的に使用できる施設
- 将来的な技術革新や社会・学びの変化に柔軟に対応できる施設

環境に優しい

- 脱炭素社会に配慮した環境にやさしい施設

整備の基本的な考え方



